

1. 技術体系の特徴

品目	家族 労働力	品目・栽培型及び規模			経営・技術の特徴			
かぼちゃ(早熟)	人 2	かぼちゃ早熟			a	1. トンネル栽培 2. 誘引、整枝、摘果、玉直 作業等の徹底 3. 適期収穫に努める 4. 選別調整は委託 5. 購入苗利用		
		経営耕地面積	水田	120	80			
経営目標	1	農業総収入	4,494	千円	4	1日当たり農業所得	3,884	円
	2	農業経営費	3,609	千円	5	1人当たり年間労働時間	912	時間
	3	農業所得	885	千円				

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格	耐用 年数	年 間 償 却 額
						千円	年	千円
建物・施設	作業及び収納舎 農機具倉庫	1	軽量鉄骨 60㎡	1	1	5,671	24	236
		1	軽量鉄骨 20㎡	1	1	1,890	24	79
	計					7,561		315
農機具	トラクター	1	20PS	1	1	1,560	7	111
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	1	180	7	13
	管理機	1	6.2PS	1	1	278	7	20
	トラック	1	軽トラック	1	1	1,324	4	166
計						3,341		310

3. 技術体系(かぼちゃ早熟)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(本ぼ) 耕うん 整地	耕起整地	2月中旬	トラクター	1	4	4	堆肥 1t 石灰質資材 100kg	深耕及び有機質の施用
施肥	基肥施用	2月中旬	トラクター 管理機	2	2	4	N 18kg P ₂ O ₅ 10kg K ₂ O 14.4kg	Nの分施割合 基肥54% 追肥46% 追肥は着果確認後施用
	追肥施用	4~5月		1	1	1		
定植準備	うね立て	2月中旬	管理機	2	1	2	ビニール 0.075mm×2.7m× 300m 黒マルチ 150巾×300m	栽植密度 うね幅3.5m×株間60cm 10a当たり 500株
	トンネル			2	4	8		
	マルチ			2	12	24		
定植		2月中旬	トラック	2	4	8		本葉4枚程度で摘心して定植する。 地温15~16℃以上確保 浅植える
整枝誘引	整枝誘引	2月下旬 ~5月中旬		2	15	30		生育の揃った子づる2本を残し 2本仕立てとする10節以下の孫づるは除去する。
温度管理	保温、換気	3月下旬 ~6月中旬		1	18	18		昼間 25~28℃ 夜間 15℃以上に保温
着果玉直し	交配 台座敷き 摘果、玉直し	4月中旬 ~5月下旬		2	10	20	台座	早朝までに交配を終わる 着果節位 子づるの 12~13節 着果率を高めるためには、12℃ 以上の気温が必要。 台座を敷き収穫10日前に玉直しを行う
				2	13	26		
病虫害防除	薬剤散布 耕種の防除	2月下旬 ~5月	動力噴霧機	2	5	10		県病虫害防除基準による
収穫出荷		6月上旬 ~7月上旬	トラック	2	30	60		着果後、55日以上の完熟果で 収穫する
後かたづけ	ほ場環境浄化	7月中旬 ~7月下旬	トラック トラクター	2	10	20		
計						235		

4. 品目の作付体系(○被覆, △定植, □収穫)

品目(作型)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
かぼちゃ (早熟)	○	△				□						

